

阪神南地域新設特別支援学校（仮称）整備事業 参考資料

【資料 2－1】

特別支援学校等の児童生徒数の現状 P 1

【資料 2－2】

兵庫県特別支援教育第三次推進計画 P 9

【資料 2－3】

阪神南新設特別支援学校生徒見込数 P 17

【資料 2－4】

芦屋特別支援学校、こばと聴覚特別支援学校施設概要 P 21

1 県における特別支援教育の現状

1 特別支援教育の学びの場

学びの場	指導形態	校種				障害種別								
		幼	小	中	高	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	言語	情緒	自閉症	L D等
特別支援学校	障害の程度が比較的重い子どもを対象として、専門性の高い教育を実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
特別支援学級	障害種別ごとの学級を編制し、子ども一人一人に応じた教育を実施		○	○		○	○	○	○	○	△	○		
通級による指導	大部分の授業を在籍する通常の学級で受けながら、一部の時間で障害に応じた特別な指導を実施		○	○	○	△	○		△	△	○	△	○	○
通常の学級	発達障害等、特別な教育的ニーズのある児童生徒が通常の学級に在籍(6.5%程度の在籍率(小中学校))	○	○	○	○									○

注1 「△」は、法令上設置可能を示す。

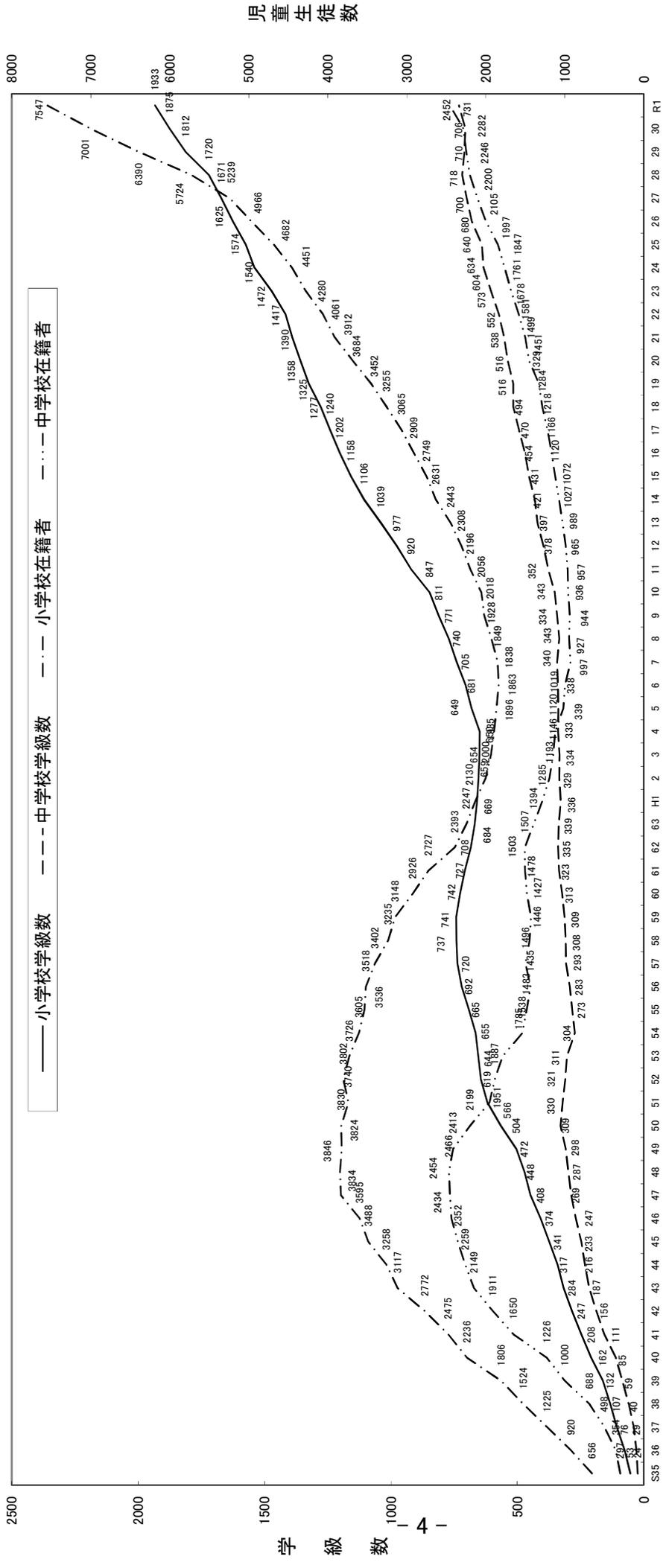
2 学校(学級、教室)数、児童生徒数(神戸市含む)

令和2年5月1日現在

区分	学校(学級・教室)数合計	障害種別									児童生徒数	
		視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	言語	情緒	自閉症	L D等		
特別支援学校	国	1校			1							49
	県	27校	1	5	22	4	1					4,172
	市	19校	1		8	13	2					1,697
	計	47校	2	5	31	17	3					5,918
特別支援学級	小学校	2,004学級	19	54	809	202	47			873		8,128
	中学校	766学級	4	25	330	61	13			333		2,689
	計	2,770学級	23	79	1,139	263	60			1,206		10,817
通級による指導	小学校	168教室		64				250	104	702	1,411	2,531
	中学校	76教室						7	62	289	612	970
	高等学校	15教室							2	53	35	90
	県立聴覚	6教室		11				2				13
	計	265教室		75				259	168	1,044	2,058	3,604
合計	3,082教室	25	159	1,170	280	63	259	168	2,418	2,058	20,339	

注1 特別支援学校には、複数障害の併置校があるため、障害種別の合計とは一致しない。

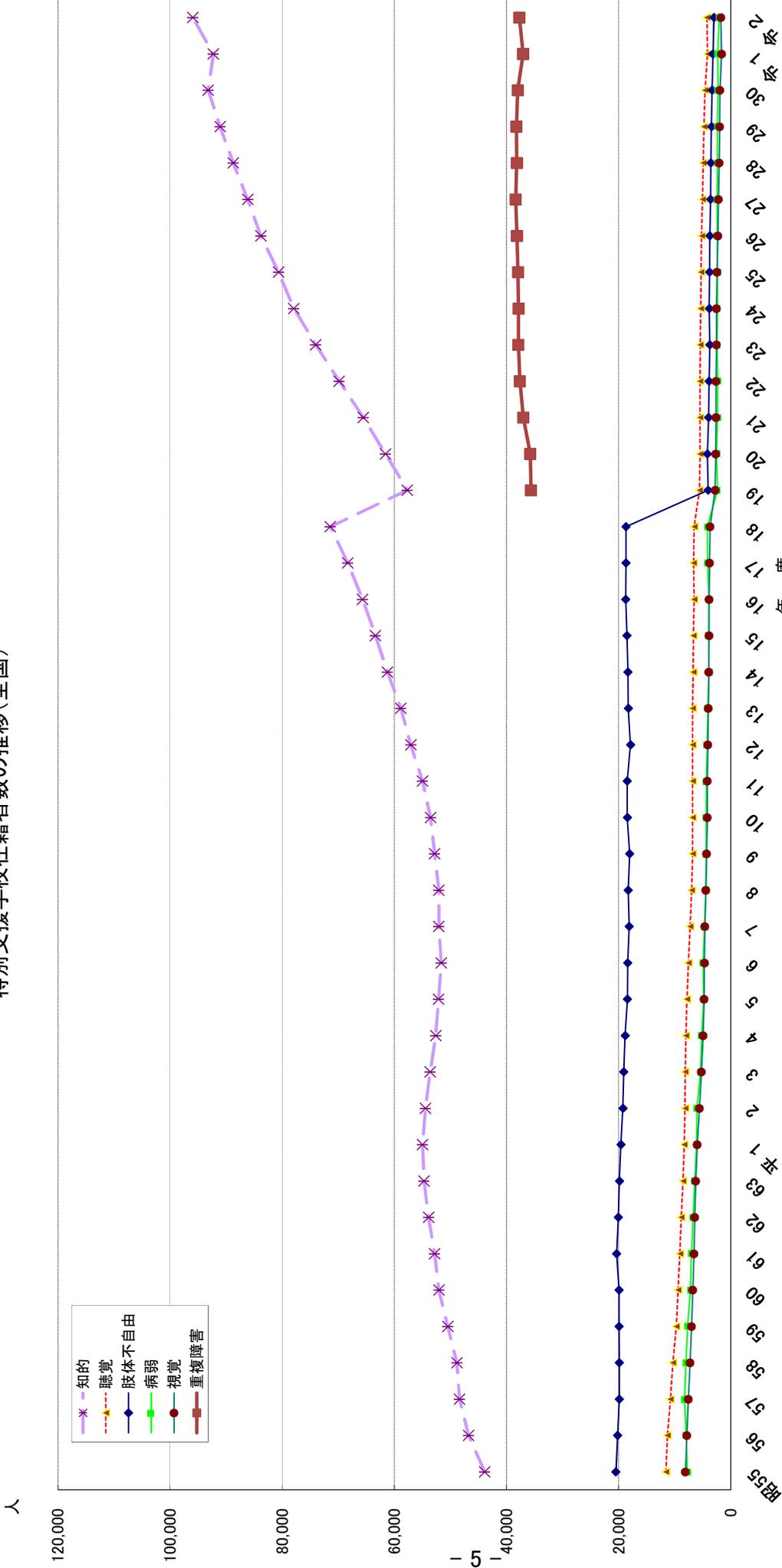
公立小・中学校特別支援学級 学級数・在籍者数推移 (S35~R2) (各年度5月1日現在)



年度

※学校基本調査より

特別支援学校在籍者数の推移(全国)

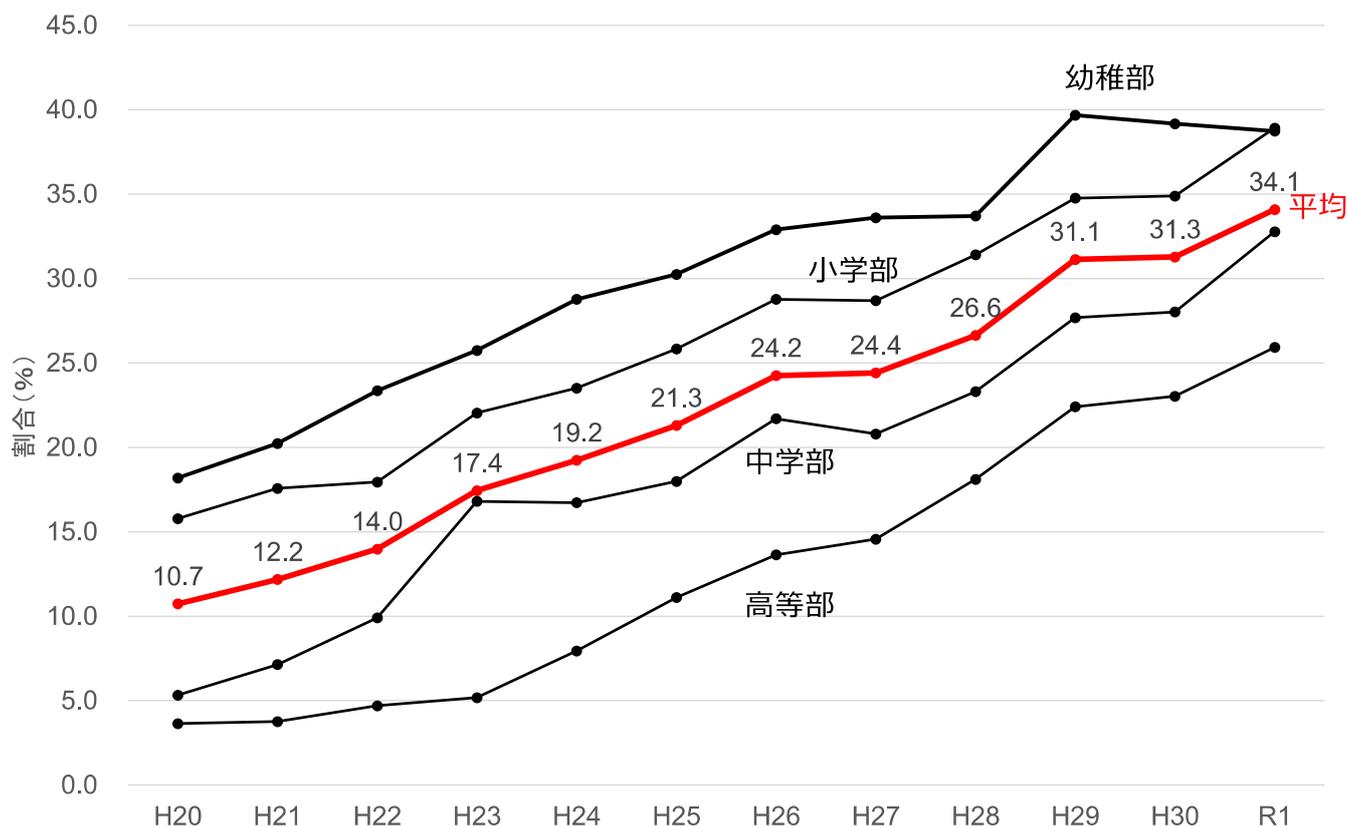


在籍者総数 (単位:人)

年度	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平	1	2	3	4	5	6	7	8
在籍者(人)	91,812	94,069	94,864	94,371	94,868	95,401	95,857	96,028	95,825	95,008	93,497	91,534	89,584	88,041	87,219	86,834	86,293	
年度	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
在籍者(人)	86,444	87,445	88,814	90,104	92,072	94,171	96,473	98,796	101,612	104,592	108,173	112,334	117,035	121,815	126,123	129,994	132,570	
年度	26	27	28	29	30	計	1	2										
在籍者(人)	135,617	137,894	139,821	141,944	143,379	140,670	144,823											

※学校基本調査より

特別支援学校（聴覚障害）人工内耳装用者の割合の推移



※「聴覚障害教育の現状と課題」（全国聾学校長会編）を基に作成。対象は 全国聾学校長会加盟校。

特別支援学校（聴覚障害）重複障害学級在籍率

(%)

	H 15	H 20	H 25	H 30
小・中学部	17.9	26.1	25.7	28.8
高等部	8.0	15.8	17.2	19.9

※学校基本調査をもとに算出。対象は全国の国公立特別支援学校。

学校教育法施行令第22条の3に該当する在籍者数

●令第22条の3 該当者の就学指定先

	公立特別支援学校への就学を指定	公立小学校への就学を指定
平成26年度	6,341	2,274
平成27年度	6,646	3,420
平成28年度	6,704	3,079
平成29年度	7,192	3,055
平成30年度	7,429	2,817
令和元年度	8,003	2,835

●小学校における令第22条の3 該当者数（令和元年5月1日）

	特別支援学級	通常の学級		合計
			うち通級	
視覚障害	155	90	22	245
聴覚障害	300	256	177	556
知的障害	12,756	547		13,303
肢体不自由	957	276	24	1,233
病弱	666	149	1	815
重複障害	1,024	26	3	1,050

聴覚障害者である幼児に対する教育を行う特別支援学校においては、早期からの教育相談との関連を図り、保有する聴覚や視覚的な情報などを十分に活用して**言葉の習得と概念の形成を図る指導**を進めること。また、言葉を用いて人とのかかわりを深めたり、日常生活に必要な知識を広げたりする態度や習慣を育てること。

言葉の指導を行う場合の留意事項

- ① 保有する聴覚の活用
- ② 様々な手段を用いた気持ちのやりとり
- ③ 主体的な言葉の獲得
- ④ 生活場面に即した適切な言葉掛け
- ⑤ 言葉と意味を結び付けた習得
- ⑥ 読話の力の育成
- ⑦ 発音・発語の力の育成
- ⑧ 言葉の働きの育成
- ⑨ 言葉による思考力の育成

さらに留意する事項

- ① 自ら尋ねたり、考えたりできるように
- ② 幅広く豊かにかかわる経験と言語化を図るように
- ③ 基本的な生活習慣の育成やルール等の理解を図るように
- ④ 友達とかかわる楽しさと思いやりの素地を育むこと
- ⑤ 日常生活全般にわたる言葉の指導

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚園・小学部・中学部)」

5

特別支援学校（聴覚障害）における乳幼児教育相談者・相談件数

平成29年7月現在、乳幼児教育相談を実施している特別支援学校(聴覚障害)100校。()内は、相談件数

		0歳児	1歳児	2歳児	合計
総面談者数計		749名 (8,325)	678名 (10,621)	787名 (17,243)	2,214名 (36,189)
定期的支援者数計		609名	569名	635名	1,813名
通学児	通学児計	601名 (7,889)	565名 (10,329)	634名 (16,794)	1,800名 (35,012)
訪問児	訪問児計	8名 (8)	4名 (63)	1名 (39)	13名 (110)
不定期	不定期児計	140名 (428)	109名 (229)	152名 (410)	401名 (1,067)

※ 平成29年度文部科学省「特別支援教育に関する実践研究充実事業(聴覚障害乳幼児教育相談研究会成果報告書より)」

学校教育法第74条

特別支援学校においては、第72条に規定する目的を実現するための教育を行うほか、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校又は中等教育学校の要請に応じて、第81条第一項に規定する幼児、児童又は生徒の教育に関し必要な助言又は援助を行うよう努めるものとする。

8

兵庫県特別支援教育第三次推進計画 (抜粋)

平成31年3月

兵庫県教育委員会

1 地域の実情に応じた特別支援学校の整備等の推進

現状と課題

兵庫県特別支援教育第二次推進計画(以下、「第二次推進計画」という。)策定以降の、県内特別支援学校在籍児童生徒数については、知的障害児童生徒が平成25年度4,039人に対して、平成30年4,583人と増加が著しい。聴覚障害幼児児童生徒は平成25年265人に対して、平成30年217人と若干減少傾向である。病弱、肢体不自由、視覚障害については、ほぼ横ばいの状況である(図1)。

この間、平成26年4月県立姫路しらさぎ特別支援学校を開校するとともに、第二次推進計画に基づき、以下の整備をしている。

① 神戸市西部・東播磨地域における知的障害特別支援学校(高等部のみ)の新設

- ・ 県立西神戸高等特別支援学校(職業科)を開校(H29)した。

② 神戸市東部・阪神地域における分教室の設置等

- ・ 県立こやの里特別支援学校分教室を県立猪名川高等学校内に開設(H26)した。
- ・ 県立阪神特別支援学校分教室を県立武庫荘総合高等学校内に開設(H27)した。
- ・ 前回推計では平成30年度が児童生徒数のピークと見込まれていたため、一時的な急増対策として、県立芦屋特別支援学校(H27)と、県立こやの里特別支援学校(H30)に仮設校舎を設置した。

③ 但馬北西部における分校の設置

- ・ 遠距離通学等への対応として、県立出石特別支援学校みかた校を開校(H27)した。

④ 県立豊岡聴覚特別支援学校を聴知併置校へ再編(H28)

前回推計では、知的障害特別支援学校在籍児童生徒数は平成30年度をピークとして増加し、その後減少傾向となると見込まれていたが、淡路地域以外では今後も増加が見込まれる(表1)(図3)。

一方で、知的障害以外の障害種別の特別支援学校在籍幼児児童生徒数は、横ばいあるいは減少の見込みである。

推進方策

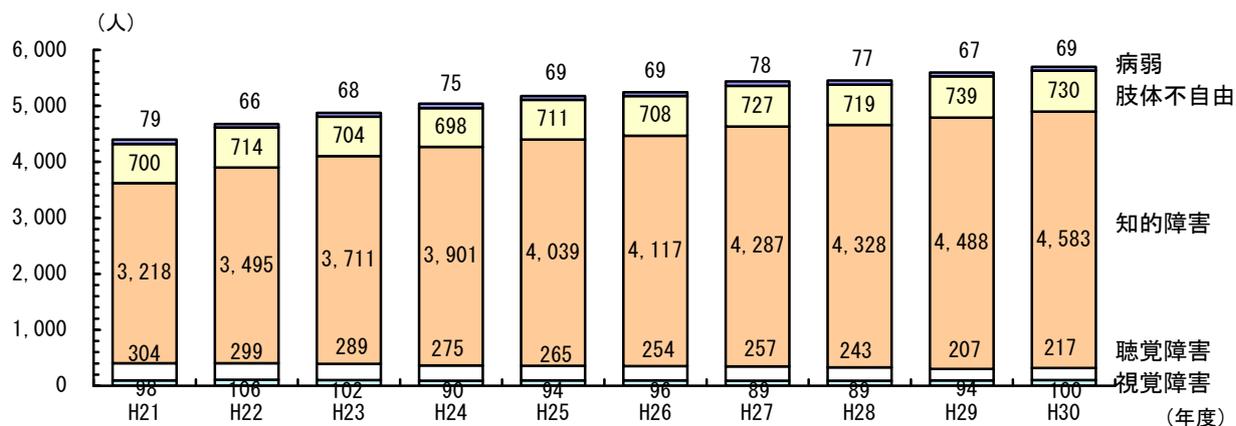
特別支援学校の狭隘化への対応等

- 知的障害特別支援学校の狭隘化を解消するための対策を検討する。
- 市町教育委員会と連携し、地域の実情や知的障害特別支援学校の児童生徒数の動向を踏まえた対応を検討する。

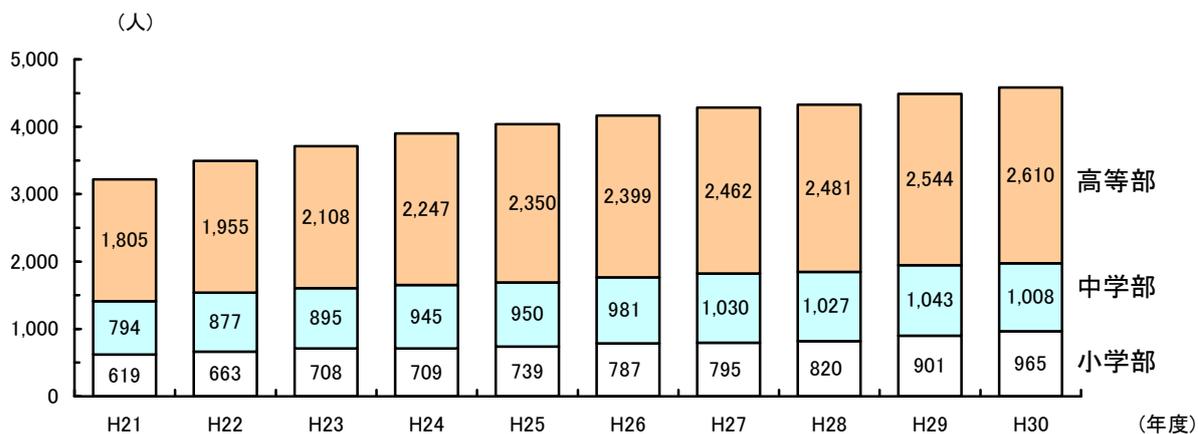
高等学校への特別支援学校分教室設置の検討〔再掲〕

- 施設の確保や教育課程等環境の整った高等学校への特別支援学校分教室の設置を継続して検討する。

(図1) 国・公立特別支援学校在籍幼児児童生徒数(保育相談部含む)の推移



(図2) 国・公立知的障害特別支援学校在籍児童生徒数の推移

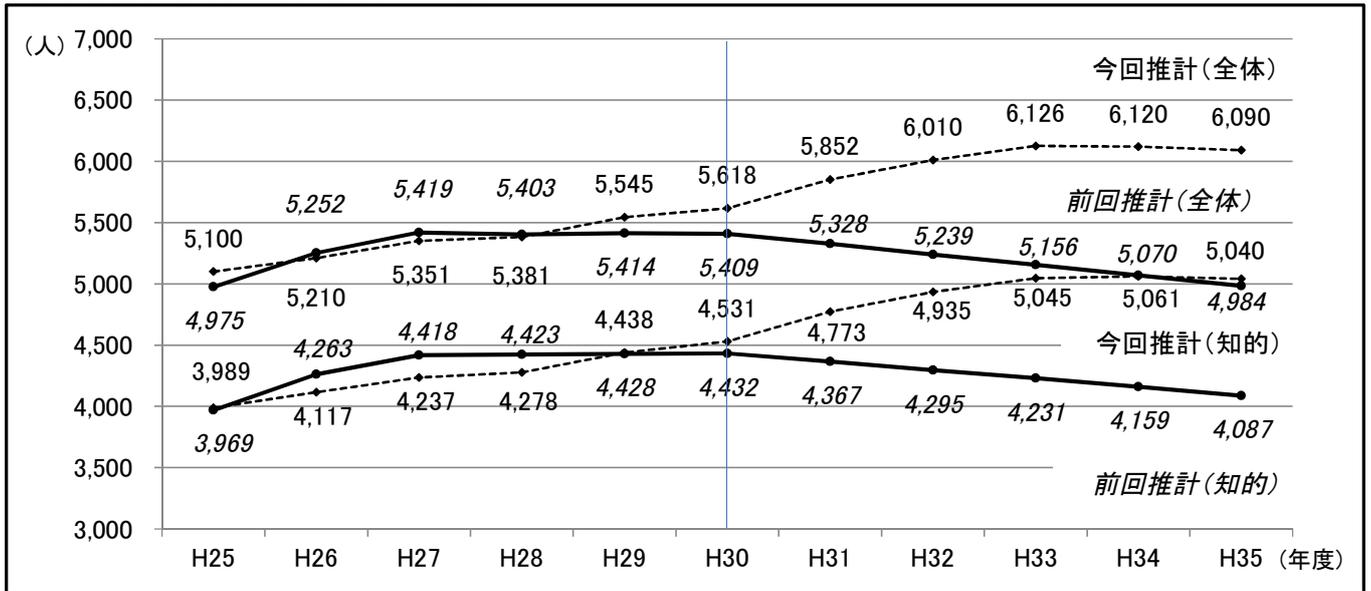


(表1) 公立特別支援学校幼児児童生徒数の推計(国立・保育相談部を含まない) (単位:人)

		H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
全体	前回推計	4,975	5,252	5,419	5,403	5,414	5,409	5,328	5,239	5,156	5,070	4,984
	今回推計	5,100	5,210	5,351	5,381	5,545	5,618	5,852	6,010	6,126	6,120	6,090
知的障害	前回推計	3,969	4,263	4,418	4,423	4,428	4,432	4,367	4,295	4,231	4,159	4,087
	今回推計	3,989	4,117	4,237	4,278	4,438	4,531	4,773	4,935	5,045	5,061	5,040

注: 今回推計の内、H30までは実数。以下同じ。

(図3) 前回推計と今回推計の比較



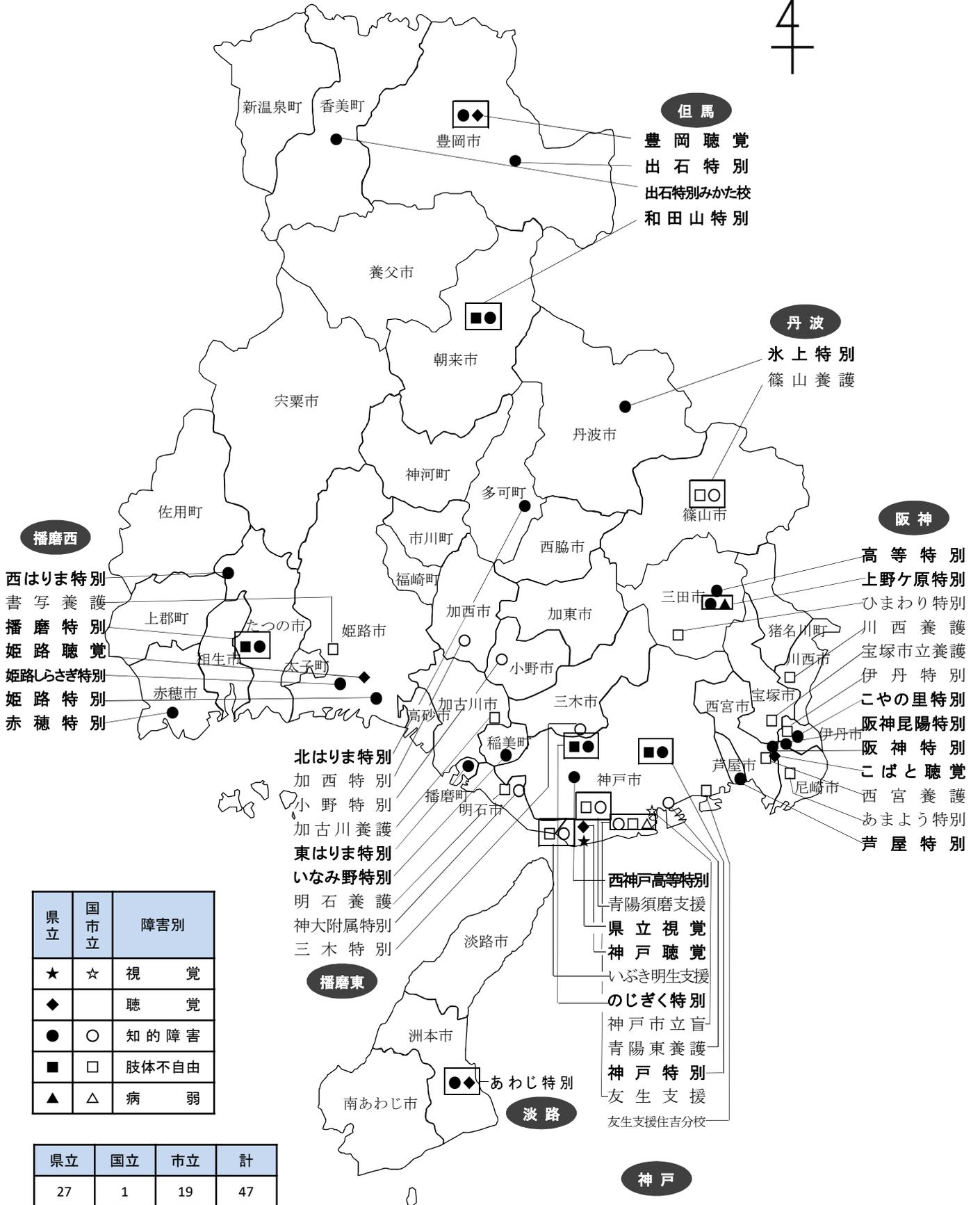
- 児童生徒数見込みの前提条件(前回推計を踏襲)
 - ・知的障害以外の各学部第1学年見込数は、過去3年平均の各学部入学率により算定
 - ・知的障害の各学部第1学年見込数は、過去5年最高値の各学部入学率により算定
- 児童生徒数見込で考慮できていない要素
 - ・高等部への入学率は、依然増加傾向
 - ・小・中学校の特別支援学級の児童生徒数は、依然増加傾向
 - ・中学校特別支援学級生徒のうち、卒業後、特別支援学校以外の進路が増加傾向

	H24 実数	前回推計			今回推計			H21からの対応状況	
		対H24 H30	対H30 H35	対H24	対H24 H30実数	対H30 H35	対H24		
全 県	4,958	451 5,409	△ 425 4,984	26	660 5,618	472 6,090	1,132		
知的障害	3,850	582 4,432	△ 345 4,087	237	681 4,531	509 5,040	1,190		
神戸市	979	222 1,201	△ 86 1,115	136	190 1,169	229 1,398	419	高等特支新設1校 知的受入1校 その他	西神戸(H29) のじぎく(H20) 姪 青 藤 藤 いぶき 明 生
阪 神	1,110	186 1,296	△ 82 1,214	104	292 1,402	70 1,472	362	高等特支新設1校 新設校1校 分教室新設2校	阪神昆陽(H24) 芦屋(H22) 猪名川(H26)、武庫荘(H27)
東播磨	687	65 752	△ 67 685	△ 2	89 776	54 830	143	新設1校	東はりま(H21)
西播磨	761	42 803	△ 72 731	△ 30	67 828	98 926	165	新設1校 分教室新設1校 知的受入1校	姫路しらさぎ(H26) 姫路別所(H23) 播磨(H21)
但 馬	147	6 153	△ 22 131	△ 16	10 157	41 198	51	分校新設1校 知的受入2校	みかた校(H27) 和田山(H22)、豊岡聴(H28)
丹 波	76	32 108	△ 9 99	23	32 108	19 127	51	知的受入1校	篠山
淡 路	90	29 119	△ 7 112	22	1 91	△ 2 89	△ 1		

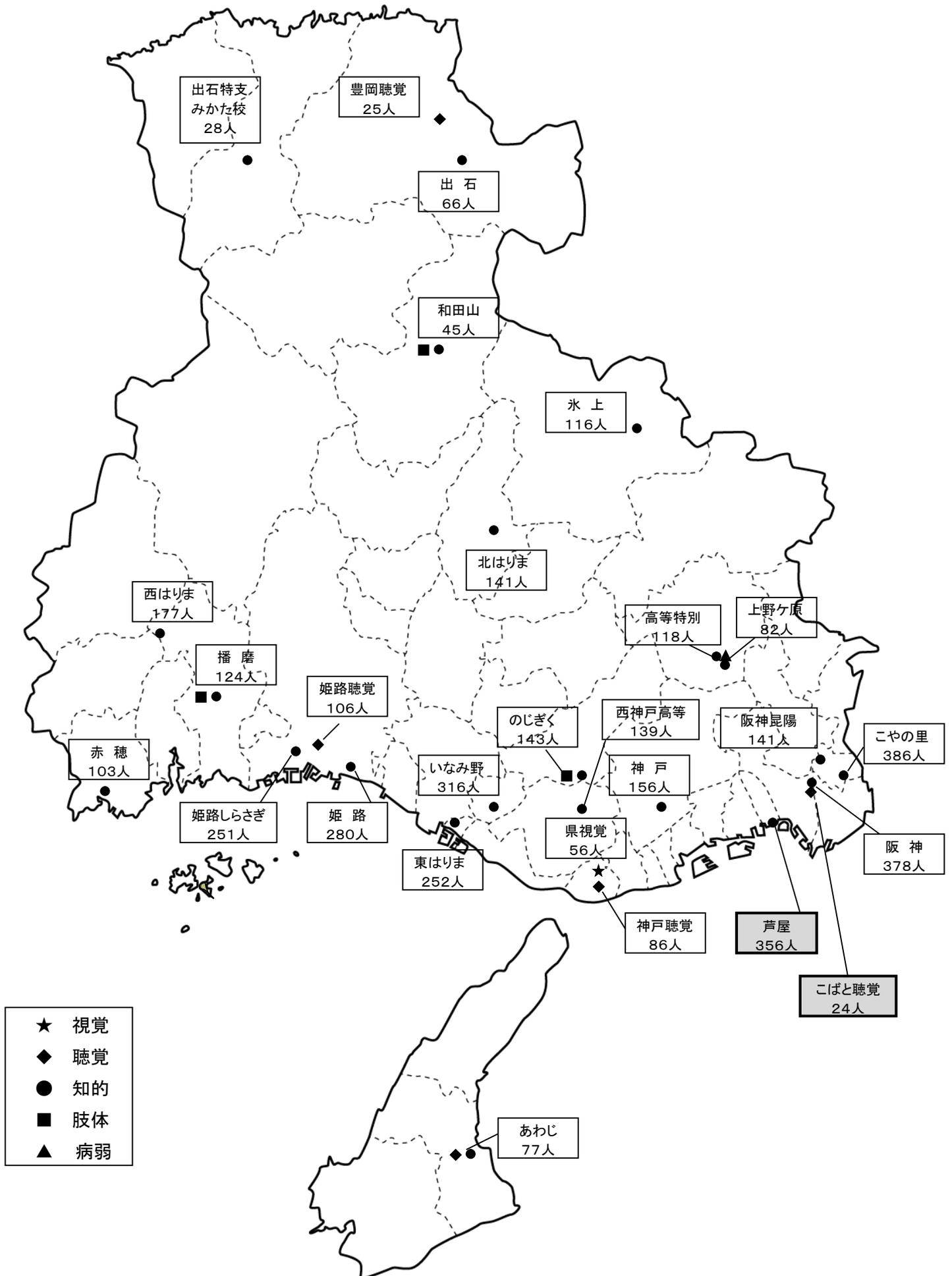
特別支援学校設置状況(兵庫県)

障害種別	学校名	設置者	設置学部							備考	
			保育 相談部	幼稚部	小学部	中学部	高等部		専攻科		
							普通	専門			
知的	神戸	神戸	県			○	○	○			知肢併置
		のじぎく	県			○	○	○			肢知併置
		西神戸高等	県						○		
		友生支援	市			○	○	○			肢病知併置
		青陽東	市			○	○	○			高等部のみに改編予定(R3)
		いぶき明生	市			○	○	○			
		青陽須磨支援	市			○	○	○			知肢併置
		HAT神戸地域	市			○	○				開校予定(R3)
	東播磨	神大附属	国			○	○	○			
		いなみ野	県			○	○	○			
		東はりま	県			○	○	○			
	阪神南	阪神	県			○	○	○	△		分教室設置(武庫荘総合高校)
		芦屋	県			○	○	○			
	阪神北	高等	県						○		
		阪神昆陽	県						○		
		こやの里	県			○	○	○	△		分教室設置(猪名川高校)
		阪神北地域	県			○	○	○			開校予定(R6)
	丹波	上野ヶ原	県			○	○	○			病知併置
		氷上	県			○	○	○			
	北播磨	北はりま	県			○	○	○			
		三木	市			○	○				
		小野	市			○	○				
		加西	市			○	○	○			
	中播磨	姫路	県			○	○	○	△		分教室設置(姫路別所高校)
		姫路しらさぎ	県			○	○	○			
	西播磨	播磨	県						○		肢知併置
		赤穂	県			○	○	○			
		西はりま	県			○	○	○			
但馬	出石	県			○	○	○				
	和田山	県			○	○	○			肢知併置	
	出石みかた校	県			○	○	○				
淡路	あわじ	県			○	○	○			聴知併置	
視覚	視覚	県		○	○	○	○	○	○		
	盲	市		○	○	○	○	○	○		
聴覚	神戸聴覚	県	○	○	○	○	○	○	○		
	姫路聴覚	県	○	○	○	○	○	○	○		
	豊岡聴覚	県		○	○	○				聴知併置	
	こばと聴覚	県	○	○							
	あわじ	県		○	○	○	○			聴知併置	
肢体 不自由	神戸	県			○	○	○			知肢併置	
	のじぎく	県		○	○	○	○			肢知併置	
	播磨	県						○		肢知併置	
	和田山	県			○	○	○			肢知併置	
	友生支援	市		○	○	○	○			肢病知併置	
	青陽須磨支援	市			○	○	○			知肢併置	
	いぶき明生	市		○	○	○	○			知肢併置	
	あまよう特別	市			○	○	○				
	西宮養護	市			○	○	○				
	伊丹特別	市			○	○	○				
	宝塚市立養護	市			○	○	○				
	川西養護	市			○	○	○				
	明石養護	市			○	○	○				
	加古川養護	市		○	○	○	○				
病弱	書写養護	市			○	○	○				
	篠山養護	市		○	○	○	○			病知併置	
	上野ヶ原	県			○	○	○			病知併置	
	友生支援	市			○	○	○			肢病知併置	

特別支援学校設置状況図

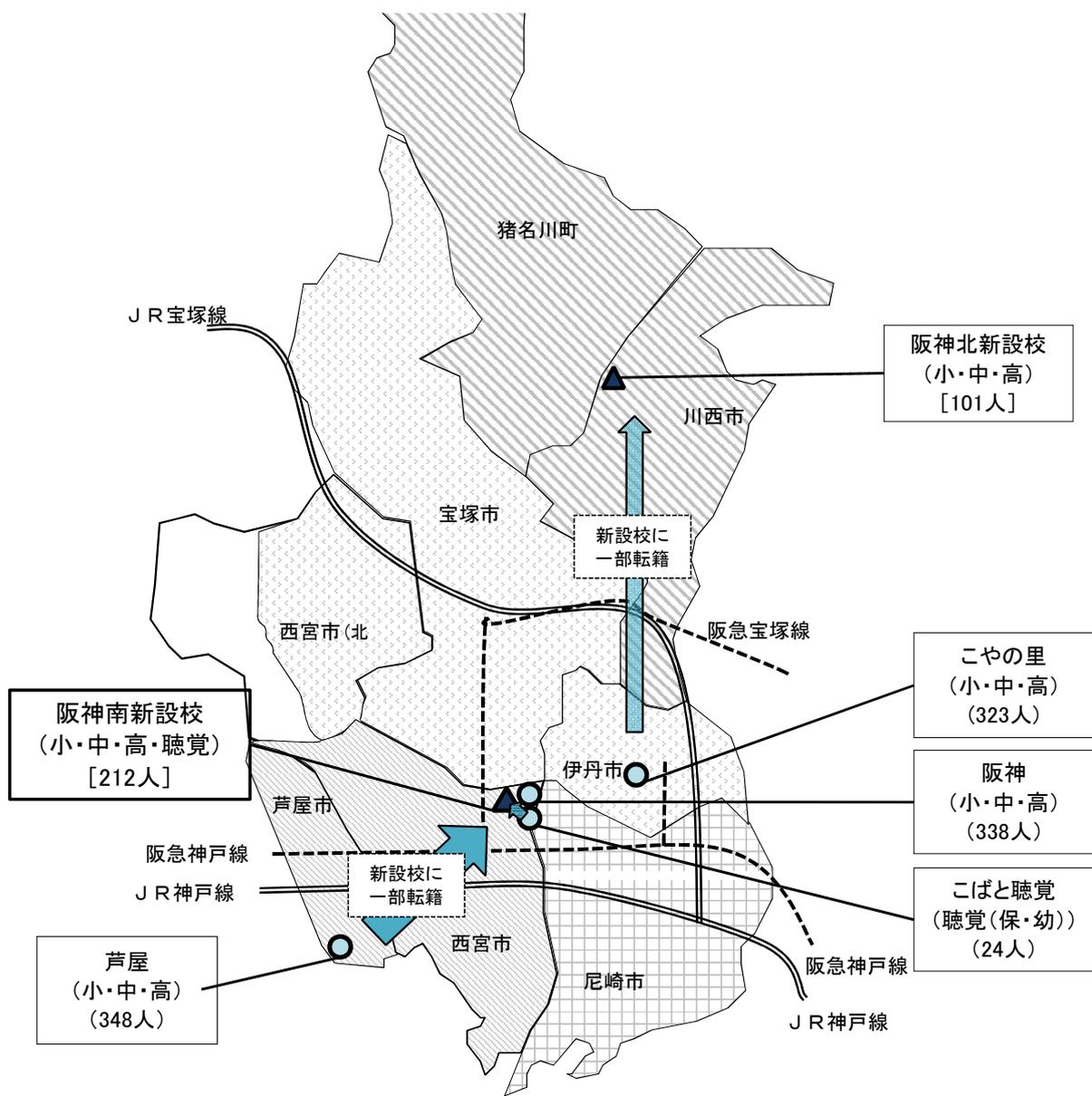


特別支援学校児童生徒数(県立)(令和2年5月1日現在)



阪神南新設特別支援学校生徒見込数【R2. 5. 1現在】

資料2-3



生徒見込数 = 芦屋特別支援学校に在籍している児童生徒のうち、新設校の想定通学区域（西宮市の一部）在住の児童生徒数及び
 こばと聴覚特別支援学校に在籍している児童生徒数

※在宅・訪問学級の児童生徒を除く

阪神南地域新設特別支援学校整備場所の位置及び状況



※国土地理院の地形図を使用

〈現況〉

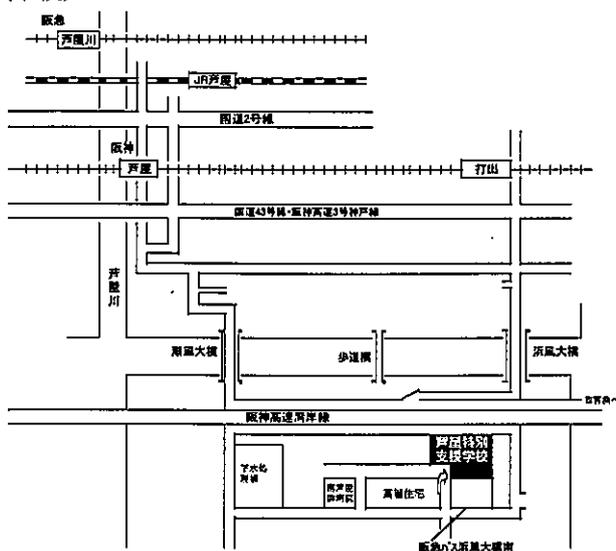




兵庫県立芦屋特別支援学校

校長	半田 滋人	設置学部	小・中・高
教頭	仁井 康彦 高田 敬子	対象障害	知的障害
設置年度	平成 22 年	スクールバス	11 台
TEL	(0797)25-5311	高等部設置年度	平成 22 年
FAX	(0797)25-5322	寄宿舎	無
所在地	〒 659-0034 芦屋市陽光町 8-37	隣接施設	無
E-mail	ashiya-sn@hyogo-c.ed.jp		
交通機関	阪急芦屋川駅・JR 芦屋・阪神芦屋の各駅から 阪急バス(14 番・71 番・72 番系統)に乗車、 「浜風大橋南バス停」下車、徒歩北へ3分		

(本校)



<学級数・児童生徒数>

学部	小学部	中学部	高等部	合計
学級数	27	22	37	86
人数	98	86	172	356

<地域別児童生徒数>

芦屋市 47名 西宮市 262名 神戸市 47名
(西宮市：在宅訪問生 3名、砂子訪問学級生 4名を含む)
(神戸市：在宅訪問生 1名を含む)

児童生徒数は令和 2 年 5 月 1 日現在

<主な学校行事>

- 1 学期 学部運動会 遠足 現場実習・校内実習(高)
学校見学会(小・中・高) 総合避難訓練 宿泊学習(小)
- 2 学期 懇談(前期) 修学旅行(小・中・高) 宿泊学習(高)
自然体験活動(中) 現場実習・校内実習(高)
オープンスクール マラソン大会(小) 体験入学(高)
芦特祭(学習発表会) 作品展
- 3 学期 懇談(後期) 地震避難訓練 マラソン大会(中高)

<校章の由来>

「A」は芦屋特別支援学校の頭文字 A の小文字であると同時に種から芽が出て伸びていく様子を表現しています。「～」は波(=海)を表現しています。

純粋さ、清潔感を表す白をバックに、南芦屋浜の海と空の青、六甲山やグラウンドの芝生、植栽の緑を表しています。

<校訓>

あかるく やさしく たくましく

<本校の特色>

- 一人一人に応じた指導・支援の充実に努め、ライフサイクルを見通した学習や進路指導により自立と社会参加を目指します。
- 関係諸機関との連携のもとに、知的障害教育のセンター的機能を発揮し、地域の学校への支援や交流、地域との交流を行い、地域に開かれた学校づくりを進めます。

【地域でのセンター的機能等】

2018年度に校内に地域支援センターを設立しました。

【教育相談機能】発達等で気になる子ども及びその保護者、教員を対象に電話、メール、来校型の教育相談や要請を受け教員の支援方法について幼保・小・中・高校等に巡回相談を行っています。

【研修企画・講師派遣機能】各市教委と連携し教材教具展、地域公開講座、検査器具貸し出し、通常学校のコーディネーター会や各学校の職員研修会企画や講師派遣を行っています。西宮香風高校と連携して高校通級指導実践事業をサポートしています。

【公的機関との連携】地域の総合相談センター(福祉)、特別支援教育センター(教育・療育)、自立支援連携協議会等にも参加し、関係機関と密に連携し、校内外支援の充実に取り組んでいます。

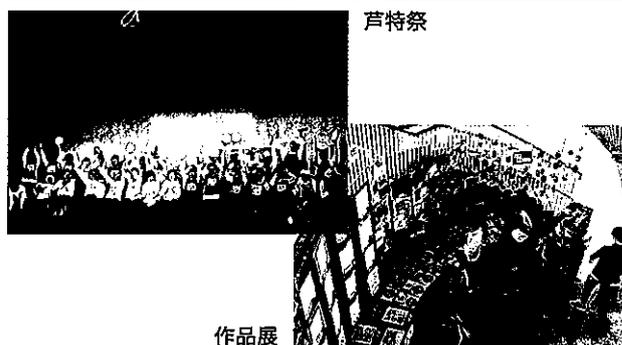
【交流及び共同学習】小・中学部児童生徒の希望者を対象に居住地校交流を、数校の高校と学校間交流を行っています。特に県立西宮高校とは、高校の施設活用等による計画的・組織的・継続的な交流及び共同学習を推進しています。

<令和元年度の進路状況>

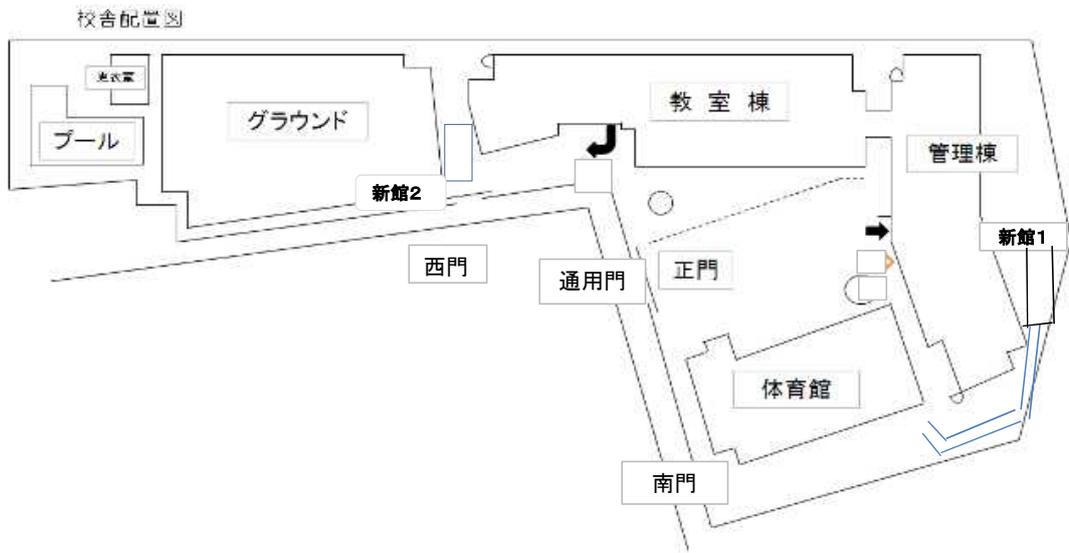
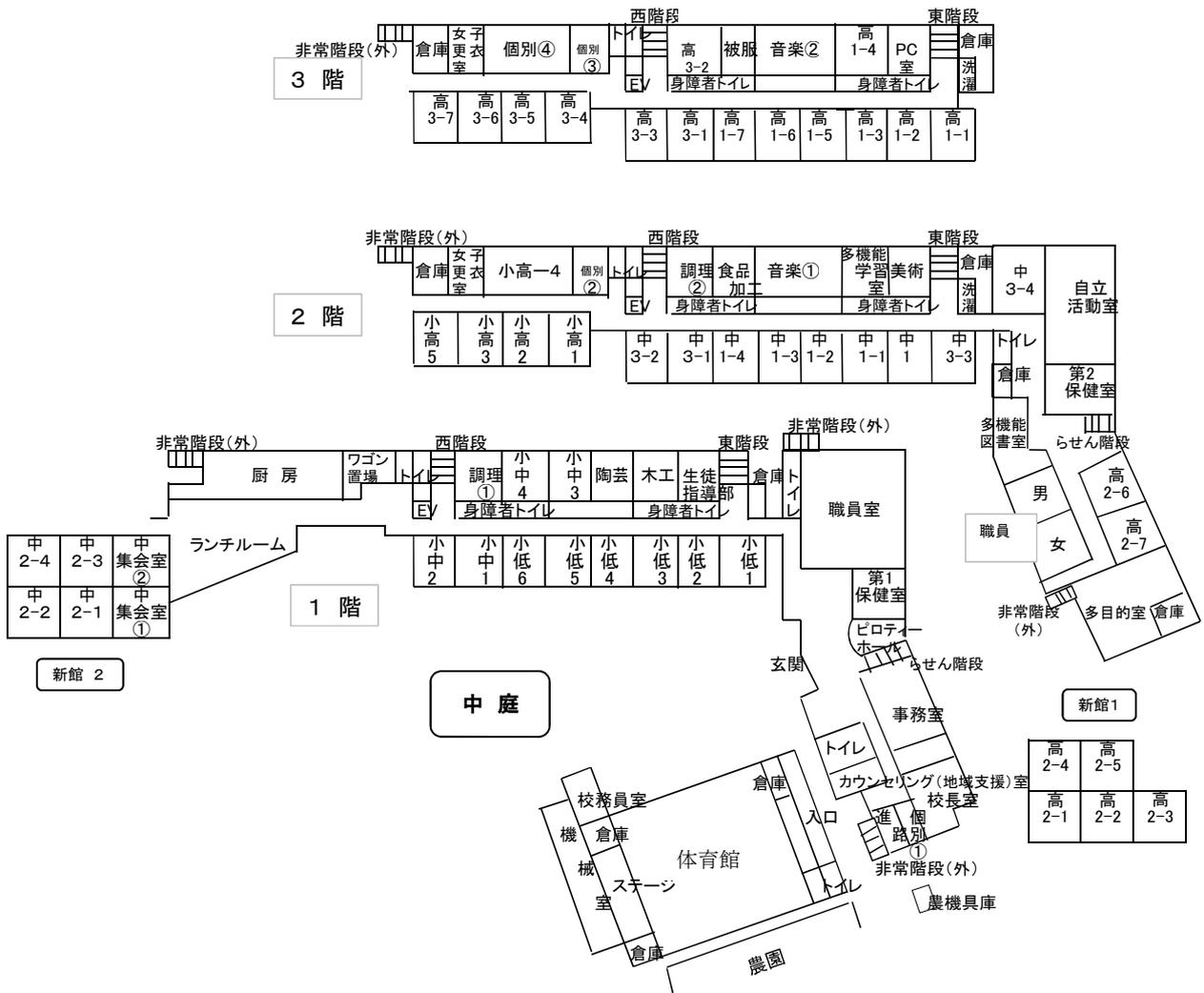
【中学部】22名 ・高等部進学 21名(本校 21名、その他 1名)

【高等部】60名

- 企業就労 4名 ・自律訓練(生活)事業所 5名
- 就労継続支援 A 型 4名 ・生活介護 8名
- 就労移行支援 3名 ・地域活動支援 1名
- 就労継続支援 B 型 24名 ・児童施設(延長) 1名
- 職業訓練校 6名 ・在宅その他 4名



芦屋特別支援学校 令和2年度 教室配置図

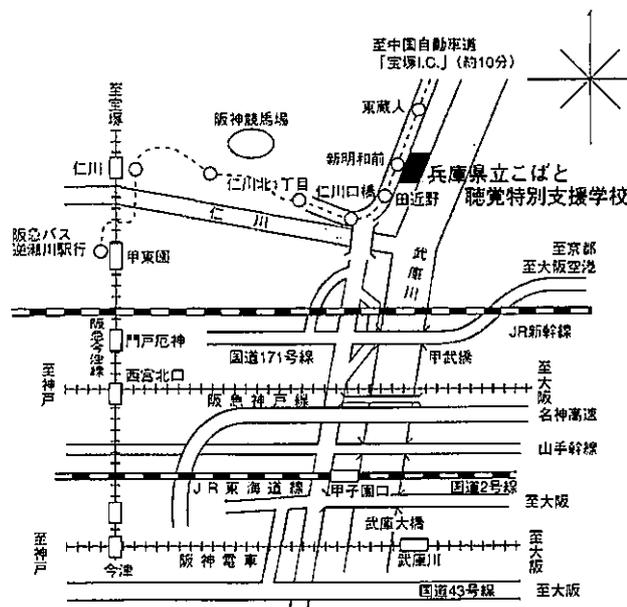




兵庫県立
こばと聴覚特別支援学校

兵庫県立こばと聴覚特別支援学校

校長	川嶋 富美子	設置学部	保・幼
教頭	石井 奈穂子	対象障害	聴覚障害
設置年度	昭和50年	スクールバス	無
TEL	(0798)53-5061	寄宿舎	無
FAX	(0798)53-5062	隣接施設	無
所在地	〒663-8001 西宮市田近野町8-8		
E-mail	kobato-shn@hyogo-c.ed.jp		
交通機関	阪急仁川駅発 逆瀬川駅行阪急バス 「新明和前」下車 東側 阪急逆瀬川駅発 仁川駅行阪急バス 「新明和前」下車 南約100m		



<校章の由来>

校名「こばと」をイメージして作成されたものである。
 壺をデザイン化し〇(目)とし、左右の5枚の羽根は下から順番に1歳児、2歳児、3歳児、4歳児、5歳児学級を表している。
 障害のある子どもたちが、早期に発見され、より早く教育を受けることにより、たくましく、大きく成長し、大空に向かって飛び出していく姿を表している。

<本校の特色>

1～2歳の保育相談部、3～5歳の幼稚部で構成されており、聴覚に障害のある幼児のみを対象とした全国唯一の聴覚特別支援学校である。個々の幼児の発達や障害に応じて集団保育と個別指導を行うとともに、医療との連携を深め、親子支援の充実を図っている。令和2年1月、「全国健康づくり推進学校」で最優秀校として表彰された。

【地域でのセンター的機能等】

- (1)聴覚に障害のある乳幼児から高校生までを対象とした教育相談
 - ・聞こえの状態やこばとの発達の把握
 - ・補聴に関する相談
 - ・年齢や発達段階に応じた子育てに関するアドバイス
 - ・多様なコミュニケーション手段の選択と活用
 - ・医療機関や福祉制度などの情報提供
 - ・医療機関や在籍校園との連携
 - ・就学に関する相談
- (2)聴覚障害のある0歳児対象の集団保育「つくしんぼ教室」の開催、地域の幼児と在籍幼児との交流保育「ぼっぼくらぶ」の実施
- (3)「医療との連携」をテーマとし、教職員等資質向上公開講座の開催やケースカンファレンスの実施
- (4)聴覚障害児教育研修会の開催
- (5)保・幼・小・中・高等学校の教職員を対象とした研修会への講師派遣、事例検討会の実施
- (6)近隣市町の保健師対象の研修・連携会

<学級数・幼児数>

学部	保育相談部	幼稚部	合計
学級数	2	2	4
人数	11	13	24

<地域別幼児数>

西宮市	5名	尼崎市	5名	伊丹市	4名
宝塚市	2名	芦屋市	2名	川西市	2名
神戸市	1名	三田市	3名	猪名川町	0名

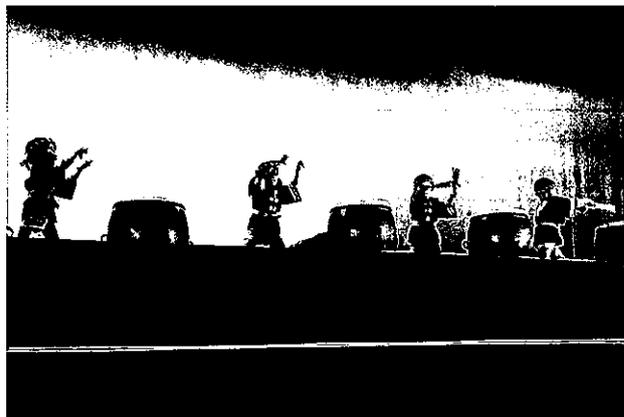
幼児数は令和2年5月1日現在

<主な学校行事>

1学期	春の遠足 保護者参観・研修 宝塚高等学校の文化祭に出演 舞子高等学校との防災教育交流 お泊まり保育
2学期	高齢者介護施設訪問交流 秋の遠足 なかよし運動会 秋まつり 学校公開デー・作品展 クリスマス会
3学期	節分行事 生活発表会

<令和元年度の進路状況>

難聴学級 2名 (西宮市1・三田市1)
 普通学級 1名 聴覚特別支援学校 1名



宝塚高等学校 文化祭での交流 (和太鼓)

校舎平面図

